



# 2 学年だより (第 2 号)

平成 29 年 5 月 2 日 (火)  
2 学年主任 藤田 雅仁

## 1 学期も 1 月が過ぎました

日ごとに暖かくなってきました。皆さんも徐々に新しいクラスや授業にも慣れ始めてきた頃だと思います。4 月の学年だよりでは、新たな環境の中で変化を受け入れ自分を磨いていくこと、進路を明確化させ、「自覚と自立」を高めていくことを書かせてもらいました。これから、君たちにとって大切な基礎力となっていくものです。この 1 年間ですこしでも高い次元で獲得してもらいたいと思います。

今年度より遅刻の規定がより厳密になりました。あたり前のことをきちんとやっつけていこうということです。4 月の学年遅刻数は 10 件でした (公傷等やむを得ないものは除く)。ちょっとした遅刻が多く、もっと減らすことが出来るものです。ゼロを目指していきましょう。

5 月に入ると、ゴールデンウィーク、総合体育大会など学校外での動きも多くなります。5 月 14 日までの 2 週間で学校への登校 (授業) は 4 日しかありません。基本的な生活習慣を乱すことなく、自分の行動には十分注意を払ってください。交通事故にも十分注意し、勉強・部活動に積極的に励んでもらいたいと思います。

また、今月からバイク通学も始まります。ルールを守ることは大前提です。これができないならバイクに乗ることは許可されません。法律上の責任はもちろんですが、学校の利用規則も守るということです。本校のバイク利用は許可制をとっているわけですから、信頼を裏切ることのないよう自覚をもち利用してください。

## 恐ろしい、ゆでガエル理論 (熱湯経営より)

ビジネス界に「ゆでガエル理論」というのがあります (実際の自然科学的な実験でなく疑似科学的なたとえ話です)。どういう理論かという、2 匹のカエルを用意し、片方は常温水の入ったビーカーに入れ徐々に温めていき、もう片方はいきなり熱い湯に入れるというものです。熱い湯に入れられたカエルは脱出しようと跳び出すのに対し、水から温められたカエルは気持ちよさそうにして、自分が危険な状態にあるにもかかわらず、何もせず、気付いた時には身動きが取れない状態になっているということです。すなわち、慣れ親しんだ状況につきりきって、新たな努力をせずに模索せずに現状肯定を繰り返し、低い目標設定に甘んじている集団はすでに身動きの取れない状況に陥っていてもそのことにすら気づかなくなってしまうということです。これでは、力をつけ、さらに良い未来を築いていくことはできません。

この話は、良い現状がさらに良くなる方法はないか模索しながら、新しいものを見つけ出す試みを続けることが必要であることを教えているような気がしてなりません。人間はどうしても楽な道を選ぶものです。時にはそれが必要かもしれませんが、あまりやりすぎていると、このゆでガエルになってしまう可能性は誰にでもあるのです。新しい環境変化により、自分に対する「刺激と気付き」も大切にしたいものです。

『心が変われば、態度が変わる。  
態度が変われば、行動が変わる。  
行動が変われば、習慣が変わる。  
習慣が変われば、人格が変わる。  
人格が変われば、運命が変わる。  
運命が変われば、人生が変わる』

